

第3回豊山町臨空第2公園 整備検討会議 検討資料

豊山町
令和6年 3月


基本計画 目次案

章番号	タイトル	備考
第1章	計画の背景	
第2章	整備コンセプト	
第3章	避難所・アリーナの導入機能の検討	第2回・第3回検討会報告事項
第4章	賑わい施設の導入機能の検討	第2回・第3回検討会報告事項
第5章	避難所としての役割・機能の検討	第2回検討会報告事項
第6章	交通に係る検討	第2回検討会報告事項
第7章	施設配置および動線の検討	第3回・第4回検討会報告事項
第8章	整備イメージ	第4回検討会報告事項

第3章 避難所・アリーナの導入機能の検討

1-1. 移動観覧席のランニングコスト、面積増加の影響等

- 前提として、固定観覧席は2階に設置予定。
 - 移動観覧席を設置すると、セミオート、フルオートとも、20年間で2,000万円超のランニングコストがかかり、面積増加の影響は3,440万円のコスト増となる。
 - 災害時は、電動部分の収納が難しいという課題がある。
- 災害時の制約やコストの観点から、移動観覧席の設置は本事業に適さないのではないか

	移動観覧席(セミオート)	移動観覧席(フルオート)
イメージ		
ランニングコスト	<ul style="list-style-type: none"> • 24,600千円(20年) • 全て手動の場合9,300千円(20年) 	<ul style="list-style-type: none"> • 25,540千円(20年)
活用例	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツだけでなく、講演会、式典、演劇等に活用可能 	
災害時機能	▲ 電動部分の収納が難しい	▲ 電動部分の収納が難しい
収納時サイズ	奥行D=1,330mm	奥行D=2,300mm
面積増加分※	1.3m×84m=約100㎡	2.3m×84m=約200㎡
整備単価	344千円/㎡	344千円/㎡
増加費用	34,400千円	68,800千円

※ 面積増加については、避難所・アリーナの器具庫の面積を減らさない仮定として試算

1-1.参考資料：社会教育センターのアリーナ、ホールの稼働状況

- 本事業のアリーナ施設について検討するうえで、参考として豊山町の類似施設である社会教育センターの利用実績データを以下の項目で整理している。
 - ① アリーナ、ホールの概要
 - ② 稼働率
 - ③ 利用目的
 - ④ ホールの移動観覧席の利用割合について

1-1.参考資料① アリーナ、ホールの概要

アリーナ

年間をとおしてバスケットボール、バドミントン、インディアカ、バウンドテニスなどのさまざまなスポーツが盛ん。

【施設内容】

面積：1,363,67㎡ (2分割可能)
バスケットボール、バレーボールコート2面、バドミントンコート8面
観客席236席、シャワールーム付更衣室有

【休館日】

月曜日、12月29日から翌年1月3日

【使用料金】

全面使用のとき

時間帯	使用料金	照明使用料金
9時00分～12時00分	2,540円	620円/30分
13時00分～17時00分	3,460円	620円/30分
18時00分～21時00分	2,540円	620円/30分
9時00分～21時00分	8,750円	620円/30分

半面使用の時

時間帯	使用料金	照明使用料金
9時00分～12時00分	1,270円	310円/30分
13時00分～17時00分	1,730円	310円/30分
18時00分～21時00分	1,270円	310円/30分
9時00分～21時00分	4,370円	310円/30分

スポーツ以外の使用

時間帯	使用料金
9時00分～12時00分	7,630円
13時00分～17時00分	10,380円
18時00分～21時00分	7,630円
9時00分～21時00分	26,270円



ホール

各種大会、発表会に多く利用され、健康体操などの軽スポーツにも利用可能。

【施設内容】

面積：ホール 255.58㎡ ステージ 144.87㎡
定員：336名（客席使用時）

【休館日】

月曜日、12月29日から翌年1月3日

【使用料金】

舞台を利用する場合

時間帯	使用料金	照明使用料金
9時00分～12時00分	2,130円	430円/30分
13時00分～17時00分	2,850円	430円/30分
18時00分～21時00分	2,130円	430円/30分
9時00分～21時00分	7,330円	430円/30分

舞台を利用しない場合

時間帯	使用料金
9時00分～12時00分	1,420円
13時00分～17時00分	1,930円
18時00分～21時00分	1,420円
9時00分～21時00分	4,880円

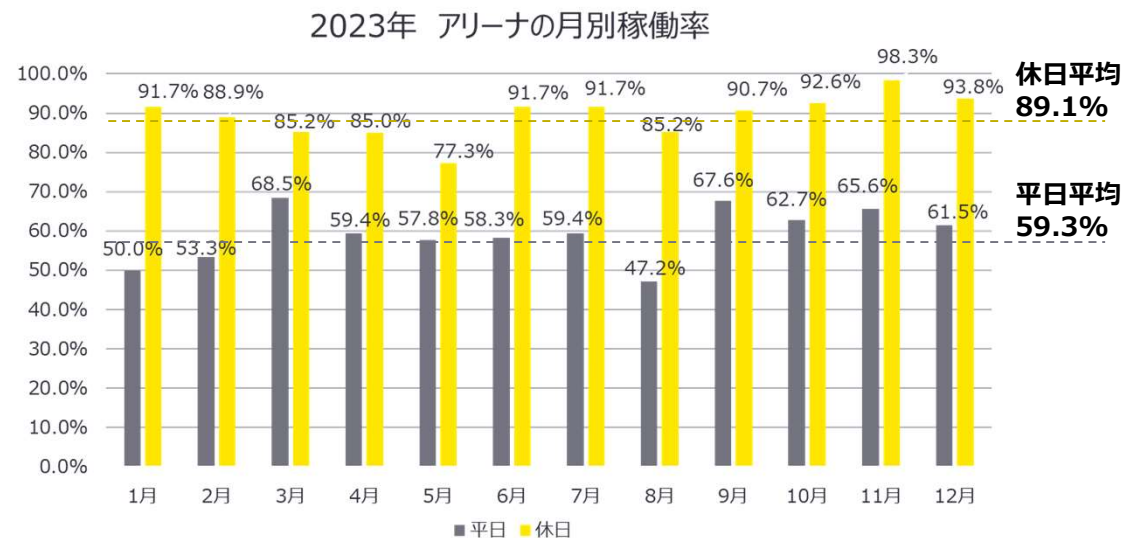
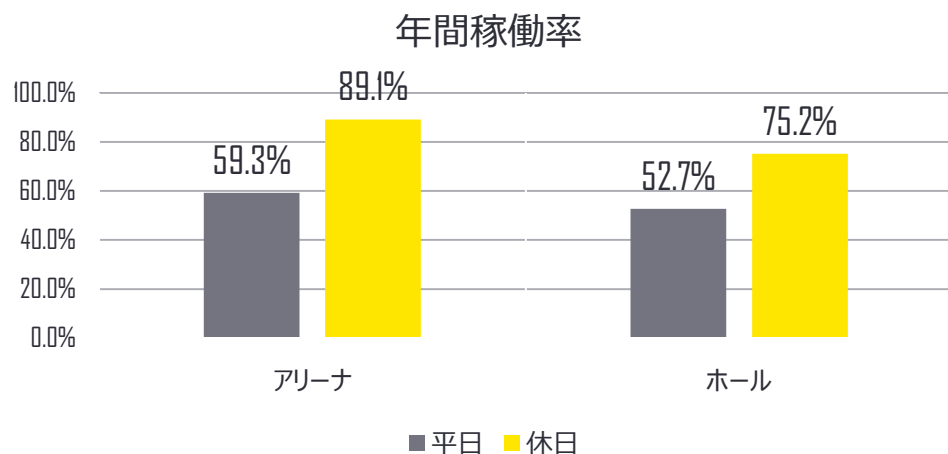


※可動式観覧席を利用している様子

1-1.参考資料② 稼働率

- アリーナにおける休日※の稼働率は年間で89.1%と高く、月別の稼働率は秋から冬(9月～12月、1月)にかけて、90%を超える状況である。
- ホールにおける休日の稼働率は年間で75.2%と高く、月別の稼働率は2～3月が約90%近い状況である。
⇒上記の稼働状況からも、新アリーナにおいても一定の需要があると考えられる。

※休日は土日・祝日を含む



稼働率は以下のように計算している。

稼働率 = 利用枠数 ÷ 総予約枠数

※利用枠数については以下の通りにカウントしている。

【時間枠について】

9～12時、13～17時、18～21時の利用：それぞれ1枠

9～12時、13～21時の利用：それぞれ2枠

9～21時の利用（全日利用）：3枠

【アリーナの面枠について】

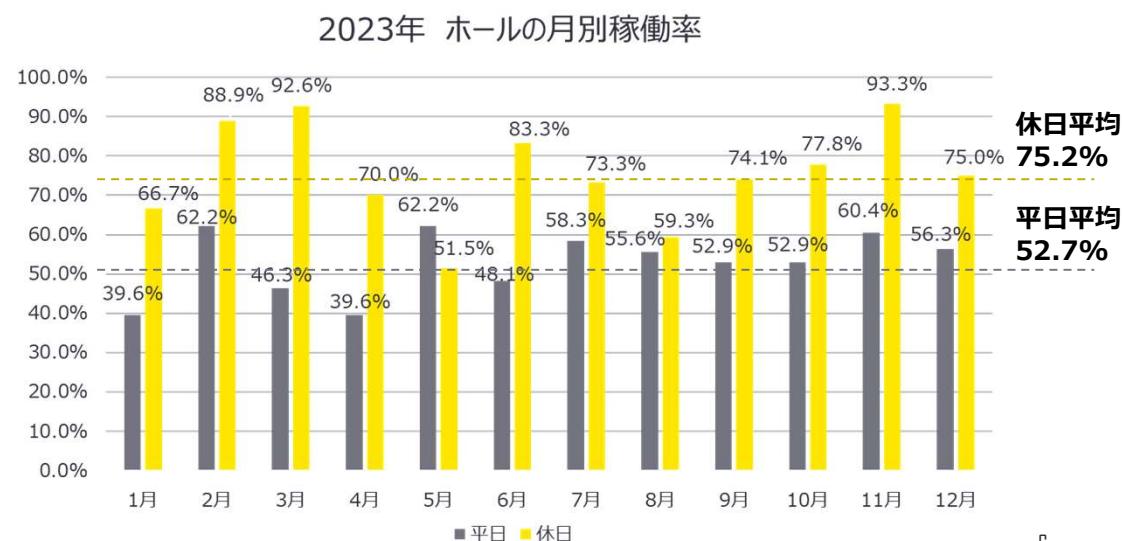
A面、B面：それぞれ1枠

全面：2枠

※総予約枠数は、以下の通りに計算している。

アリーナ：稼働日数×3（9～12時、13～17時、18～21時の3枠）
×2（A面、B面の2枠）

ホール：稼働日数×3（9～12時、13～17時、18～21時の3枠）



1-1.参考資料③ 利用目的

- アリーナで最も多い利用目的は、平日でバウンドテニス、休日でバスケットボールである。
- ホールで最も多い利用目的は、平日・休日ともに和太鼓である。
- 上記の利用に関しては、仮に社教センターのアリーナで予約が取れない場合も、新アリーナで代替え可能である。

< 利用目的 (利用件数が多い上位20項目) >

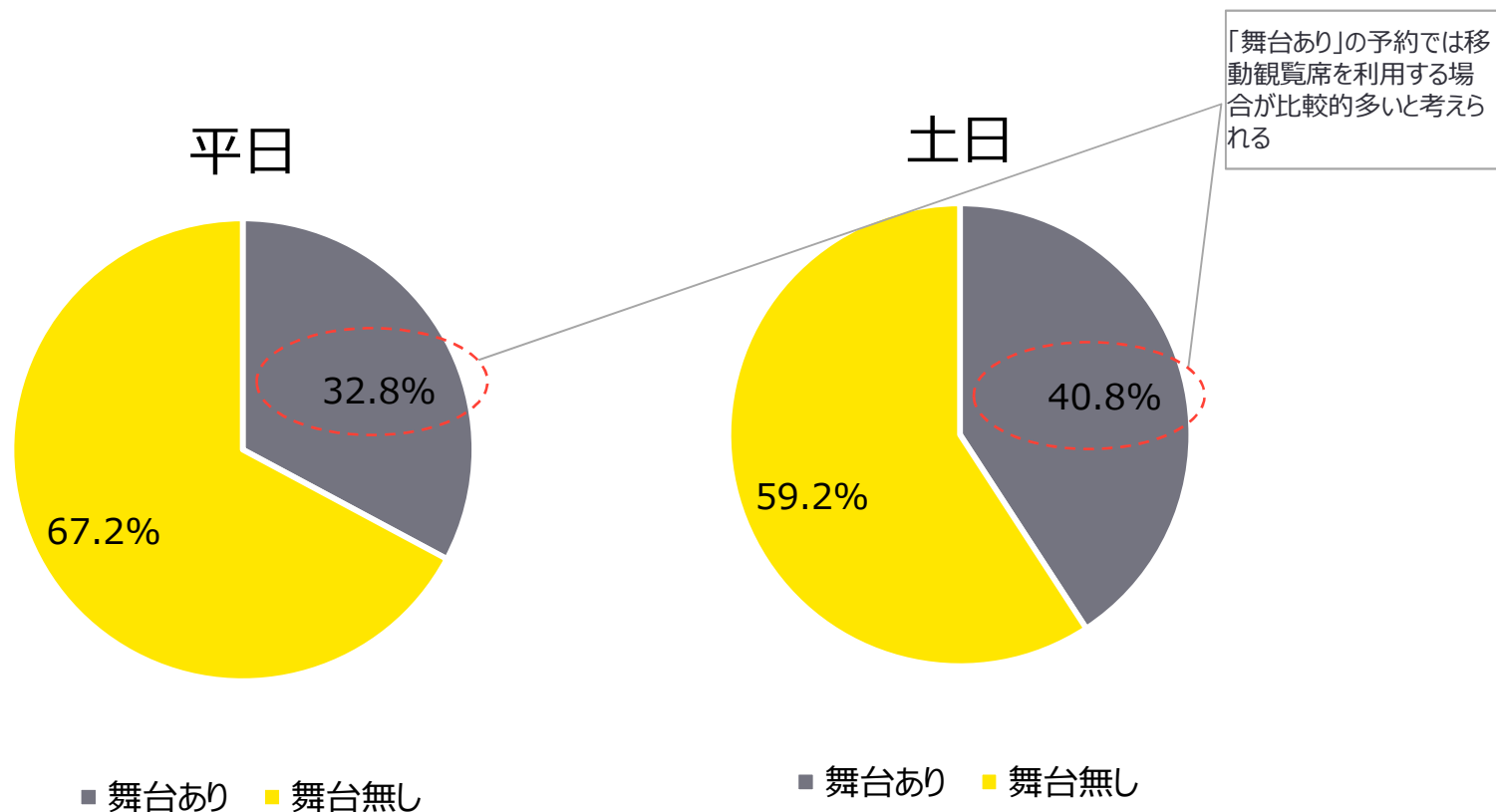
※白：「舞台あり」での利用、黄色：「舞台なし」での利用
 ※2019年～2024年1月の利用データより

アリーナ利用				
	平日	(件数)	休日	(件数)
1	バウンドテニス	675件	バスケットボール	488件
2	バスケットボール	437件	卓球	231件
3	バドミントン	404件	バレーボール	140件
4	チェックボール	193件	ラージボール	137件
5	卓球	168件	新体操	98件
6	ソフトバレーボール	127件	バウンドテニス	73件
7	健康体操	126件	バドミントン	73件
8	子ども運動教室	117件	チェックボール	48件
9	バレーボール	87件	ミニソフトバレー	46件
10	カローリング	75件	剣道	16件
11	インディアカ	70件	インディアカ	13件
12	健康長寿大学活動	27件	スポーツ少年団活動	12件
13	新体操	25件	卓球大会	11件
14	筋トレ	22件	ソフトバレーボール	8件
15	体操教室	18件	バレーボール	8件
16	ミニテニス	17件	産業まつり	6件
17	スポーツ教室	15件	式典	6件
18	ミニソフトバレー	15件	健康体操大会	5件
19	講座	13件	説明会	4件
20	式典	8件	文化展	4件

ホール利用				
	平日	(件数)	休日	(件数)
1	和太鼓	395件	和太鼓	305件
2	筋トレ	191件	卓球	122件
3	健康体操	167件	器楽	62件
4	太極拳	94件	オーケストラ	32件
5	ヨガ	55件	新体操	20件
6	健康長寿大学活動	38件	健康体操	19件
7	式典	25件	リハーサル	16件
8	講演会	20件	吹奏楽	15件
9	リハーサル	17件	発表会	14件
10	コンサート	16件	剣道	14件
11	会議	15件	ピアノ	13件
12	器楽	13件	式典	13件
13	説明会	11件	フォーラム	9件
14	成人式	11件	演劇	8件
15	空手	10件	コンサート	8件
16	ピアノ	10件	会議	8件
17	映画	9件	説明会	7件
18	卓球	9件	産業まつり	7件
19	敬老会	8件	映画	6件
20	講座	8件	講演会	6件

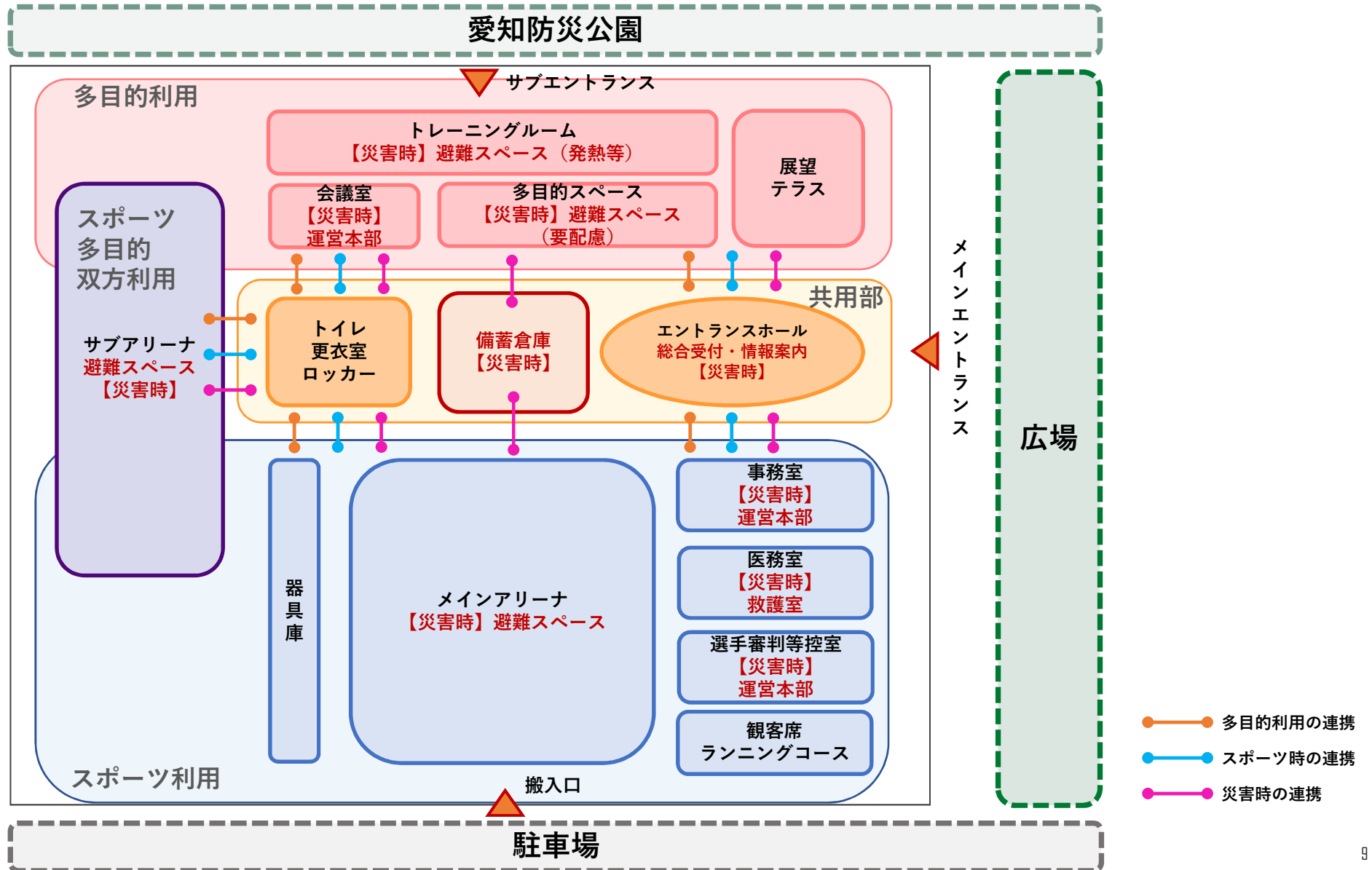
1-1.参考資料④ ホールの移動観覧席の利用割合について

- ホールにおいて移動観覧席をどの程度利用しているかの実績データはないため、「舞台あり」の予約の場合、移動観覧席を利用するケースが比較的多いと考えることから、参考値として、「舞台あり」の利用件数割合を算定。
- 平日・休日ともに「舞台あり」の予約は約3～4割。
- 但し、前頁の表でもわかるように、「舞台あり」で予約している場合でも、移動観覧席を利用していないと想定されるケース（スポーツ目的での利用等）が見られるため、実際の移動観覧席利用割合はより低いと考えられる。



1-2. 避難所・アリーナの導入機能および機能の関係性

- 平常時(スポーツ利用・多目的利用)、災害時の活用を踏まえ、避難所・アリーナの導入機能とその関係性について整理



1-3. ニュースポーツについて(その1)

- ニュースポーツの種類、概要、屋内外での実施想定を調査した。屋内で可能な種類については、備品購入等で対応可能と想定

名前	概要	屋内	屋外
1 囲碁ボール	五目並べとゲートボールを組み合わせたニュースポーツ	○	○
2 カローリング	カーリングからヒントを得て誕生したインドアスポーツ	○	×
3 グラウンドゴルフ	専用のクラブ、ボール、ホールポスト、スタートマットを使用して、ゴルフと同様なプレーを行うスポーツ	×	○
4 スカイクロス	輪投げとゴルフが融合したようなスポーツ	○	○
5 スポーツウエルネス吹矢	円形の的めがけて息を使って矢を放つ	○	×
6 タスポニー	テニスボールの代わりに直径17cm、重さ約50gのスポンジボールを手で打ち合う球技。テニスコートの4分の1程度の広さ	○	×
7 トリットボール	ゴルフと同じように、ボールを打ってホールに入れ、打数を競う競技。1ホールは最長20m	×	○
8 フーバ	中高年向け4人制バレーボール	○	×
9 棒サッカー	11名のメンバーが一列に並んで座り、相手チームと対峙して自チームのゴールを目指してボールを棒で打ち合い得点を競う	○	○

名前	概要	屋内	屋外
10 水合戦	雪合戦のように、水風船を投げ合って勝敗を決めるスポーツ	×	○
11 アーチェリーハント	2チームに分かれ、先端がスポンジとなった矢を撃ち合うスポーツ	○	○
12 アーマードバトル	鎧をデザインや材質など、可能な限り史実に忠実に再現し、これを装備して戦うスポーツ	○	○
13 アックススローイング(斧投げ)	ダーツのように、斧を的に投げて得点を競う	○	○
14 インディアカ	羽根の付いた特殊なボール(「インディアカボール」と呼びます。)を手で打ち合う、バレーボールタイプのスポーツ	○	×
15 ウッドボール	ゴルフをコンパクトにしたスポーツで、ボールを飛ばすのではなく、転がして行う	×	○
16 キンボール	大きなボールを落とさないようにして競うスポーツ。3チームで戦う	○	×
17 シャフルボード	陸上のカーリングと呼ばれるスポーツ。日本には12面の専用コートが2箇所あり、どちらも緑溢れる公園内に設置	×	○
18 ジョック(足球)	サッカーテニスのようなスポーツ	○	○

1-3. ニュースポーツについて(その2)

- ニュースポーツの種類、概要、屋内外での実施想定を調査した。屋内で可能な種類については、備品購入等で対応可能と想定

名前	概要	屋内	屋外
19 スポーツカイト	カイト(凧)を2本以上のライン(糸)で操作し自分の思うように動かすスポーツ	×	○
20 セストボール	攻守が入り交じり、パスをつないでボールを運び、ゴールにシュートをして得点を競い合うゴール型ゲーム。360°どこからでもシュートを打てるようにリングを設置	○	○
21 タンブレリ	タンバリンを原型としたバットを使用し、バドミントンの羽根を打つ競技	○	○
22 タンブレロ	タンブレリ同様にタンバリンを原型としたバットを使用。5人がコートに入って戦い、テニスのように向かい合ってボールを打ち合う	○	○
23 パドルテニス(ポップテニス)	テニスの簡易版スポーツ	○	○
24 バブルサッカー	バブルボールを身につけた状態でぶつかり合いながらサッカーを楽しむスポーツ	○	○
25 ビリッカー(スヌークボール)	サッカーとビリヤードを掛け合わせたスポーツ。通常のビリヤードと異なるのはキューの代わりに足で手玉を蹴り、蹴る代わりに頭で手球をヘディングしてもOK	○	○

名前	概要	屋内	屋外
26 ユニカール	カーリングを氷のないオフシーズンでも楽しめるスポーツ	○	×
27 ウォーキングフットボール	決して走ってはいけないサッカー	○	○
28 おはじきサッカー(テーブルフットボール)	専用のテーブル(サッカーフィールド)の上で、選手のコマを指で弾いて行なうサッカー	○	×
29 ソフトバレーボール	軽くて柔らかいボールを使用	○	×
30 バルーンリーグ	風船を落とさないように打ち合うゲーム。風船が床に落ちたら負け	○	×
31 スポgomi	チームで制限時間内にゴミを拾い、その量と質で得点を競うスポーツ	×	○
32 スラックライン	木などを使用し、二点間に専用のラインを張ってその上でバランスを楽しむスポーツ	○	○
33 トロルボール	剣とボールを使用して、ラグビーのような形式でゴールを目指すスポーツ	×	○
34 ドローンサッカー	専用のドローンを使用して、5人対5人でドローンを操作して競う	○	×

1-3. ニュースポーツについて(その3)

- ニュースポーツの種類、概要、屋内外での実施想定を調査した。屋内で可能な種類については、備品購入等で対応可能と想定

名前	概要	屋内	屋外
35 ドローンファイト	ドローンに針をつけず、安全に風船を割って競い合う日本発祥のドローンスポーツ	○	×
36 ティーボール	いつでも、どこでも、誰でも、楽しくプレー出来る野球・ソフトボール	×	○
37 ディスクゴルフ	フライングディスク(frisbee)を使用して、ゴルフのようにコースを回って、専用のゴールにいかに少ない投球で入れるかを競う	×	○
38 ドッジビー	ドッジボールのボールをディスク(frisbee)のようなものに変えたゲーム	○	○
39 パークゴルフ	クラブ1本とボール1個、ティーがあれば誰にでもプレーを楽しむことができるスポーツ	×	○
40 ピックルボール	バドミントンコートと同じ広さのコートで木製のパドル(ラケット)を使い、穴の空いているボールを打ち合うスポーツ	○	×

名前	概要	屋内	屋外
41 ピンポン野球	ピンポン球で行う野球	○	×
42 フットダーツ	大きなダーツの的に、サッカーボールを蹴って当てるスポーツ	○	○
43 フットベースボール	ソフトボールのルールで、道具はサッカーボールを使い、足でボールを蹴る	×	○
44 ボサボール	トランポリン上のコートの上で、バレーボールを行うようなスポーツ	○	○
45 ホッケーン	ただ椅子にカッコよく座ることを競うスポーツ	○	○
46 枕投げ	枕を投げ合う	○	×
47 ミニフットゴルフ	足でゴルフを行うフットゴルフを、より簡素化したスポーツ	○	○
48 リアル野球盤	卓上で行う野球盤の基本はそのままにして、広い所で人が動いて楽しもうというアイデアから生まれたゲーム	○	×

出典:ニュースポーツ種目まとめ【全48種類】
https://sportsvektor.com/newsports_matome/

第4章 賑わい施設の導入機能の検討

2-1. 飲食・物販施設について

- 飲食・物販施設については、これまでのご意見や「本事業の基本コンセプト」及び「第一回検討委員会で皆様から頂いたご意見」を基に、民間事業者等にヒアリングを行い、実現性やどのような提案ができるのか確認し、計画に反映する予定です。

基本コンセプト

基本コンセプト 災害時の安心を守る

被災した地域住民の安心安全を確保するために必要となる
防災機能の強化

- 基本方向: 災害時に700人の避難者を収容できる施設
- 基本方向: 電気、水道等が遮断されても機能する施設
- 基本方向: 豊山町の災害対応力の強化
- 基本方向: 消防学校と連携した日常的な防災訓練・学習の実施

基本コンセプト まちの魅力を発信する

豊山町の新たなまちの魅力創出のための都市機能整備と県
営名古屋空港をはじめとする町の資源との相乗効果を生みだ
す魅力発信

- 基本方向: 町民、地域事業者、JA等と連携したアンテナショップ
等の展開
- 基本方向: 愛知県防災公園及び神明公園と一体となり様々な大会
・イベントが開催できる空間と施設整備
- 基本方向: カフェ等の飲食施設の整備

基本コンセプト 暮らしの憩いと潤いを高める

町民・来場者の暮らしを豊かにする場としてスポーツ機能、
健康増進機能、憩いと交流機能を提供

- 基本方向: スポーツ・健康増進機能の提供
- 基本方向: 施設利用者の交流と居心地の良さを提供する施設
- 基本方向: 子どもから高齢者まで多世代が楽しめる施設
- 基本方向: 公共交通の充実

第一回検討委員会で皆様から頂いたご意見

飲食施設

- 皆さんが憩えるカフェ、あるいはアリーナで汗を流した後に休憩できるカフェ
- ”空や緑・空間を意識できる開放的なオープンテラス型カフェ子供から高齢者まで安心できる(地元)食材を用いたカフェ(例:JAみのりカフェ等)夜間避難を見据え夜景を見ながらディナーを楽しめるオープンカフェ”
- スターバックスを併設
- ”そらいろカフェフードコート的なスペース(サンドイッチ、牛丼、うどん、ラーメン、ハンバーガーetc)、給食センターで作る給食”
- 施設の中にはカフェなどを設置いただきたい。定食、焼きたてパンなど、地域の方に気軽に食べてに来ていただけるものも必要。
- えびせんの里のようなセルフカフェ又は北名古屋市のもえの丘のようなシルバー人材センターで営業
- カフェをテイクアウトできる惣菜店
- オープンカフェを整備
- スターバックスコーヒーの outlet

物販施設

- 愛知県防災公園に広域的に利用者がいらっやって、消防学校が年間を通して稼働していることを想定したときに、そちらの利用者も含めた利便に供するコンビニ
- 青山の地域住民のよろずや
- 「未来コンビニ」のような世界一美しいコンビニを訴求できるくらい大投資し、びっくりするような建築物を造る
- 物販エリアにコンビニ等を併設し、買い物難民の解消

2-1.参考資料 臨空第2公園の年間利用者の推計

- 賑わい施設の検討にあたり、利用者数のデータは重要であるため、今後のマーケットサウンディング等で、参考情報として活用する予定。

(年間利用者数の推計値)

臨空第2公園:約28,800人、避難所・アリーナ:約100,000人、愛知県防災公園:208,000人

合計: 約336,800人 (国土交通省の都市公園利用実態調査報告書R3から推計)

< 臨空第2公園の入園者数の算出手順 >

- ① 国交省都市公園利用実態調査報告書R3より、1日の来園者として休日160人/日・haを採用
- ② 本敷地における公園としての利用可能面積は1.8haとなることから、1日あたり288人が来園
- ③ 造園ハンドブックのピーク日集中率から、臨空第2公園では4季型公園(上記来園者数が年間の1.00%)を採用
- ④ 以上より、288人x100 = **約28,800人**と年間入園者数を推計

		街区	近隣	地区	運動	総合	広域	国営	
平均利用可能面積	ha/ヶ所	0.302	1.620	3.877	16.910	17.370	50.106	135.532	
平均入園者数	休日	人/ヶ所	167	668	1,009	3,382	2,772	4,269	6,862
	平日	人/ヶ所	194	677	730	1,646	1,574	1,995	2,098
haあたり入園者数	休日	人/ha	552	412	260	200	160	85	51
	平日	人/ha	644	418	188	97	91	40	15
平均在園時間※1	時間	0.86	0.98	1.25	2.00	1.42	1.81	1.85	
平均在園時間※2	休日	時間	0.96	1.04	1.79	2.32	1.28	2.00	2.24
	平日	時間	0.91	0.85	1.03	0.89	0.99	2.23	1.51
平均到達時間※3	分	13.9	18.7	21.9	28.4	30.6	38.1	67.2	
80%到達時間※4	分	18.3	24.6	27.6	41.5	42.7	88.5	107.2	
平均来園頻度※5	回/月	10.0	9.1	8.0	7.4	6.4	4.6	0.9	
リピーター率	%	90.4	89.4	91.1	93.6	89.2	88.2	74.7	
散歩・自転車利用率	%	79.2	62.3	50.5	32.1	32.2	16.4	7.5	
自動車利用率	%	23.6	17.6	14.2	11.4	9.6	7.3	4.3	

出典：国土交通省 R3都市公園利用実態調査報告書を引用して作成

種別	集中率
1季型公園の最大ピーク日率	1/30(3.33%)
2季型公園の最大ピーク日率	1/40(2.50%)
3季型公園の最大ピーク日率	1/60(1.67%)
4季型公園の最大ピーク日率	1/100(1.00%)

出典：造園ハンドブックを参考に作成

< 周辺施設との合計入園者数 >

- 愛知県防災公園は年間利用者を約208,000人と推計 (R3都市公園利用実態調査を活用)
- 避難所・アリーナは年間利用者を約100,000人と推計 (周辺施設の実績等より)
- 臨空第2公園と合計で、約336,800人

施設	入園者数
愛知県防災公園	208,000
臨空第2公園	28,800
避難所・アリーナ	100,000
合計	336,800

2-2. 「No.12 地元物販」への対応:関係者ヒアリングの概要 ~ 北部市場、JA尾張中央、JA西春日井~

➤ 賑わい施設における地元物販(農産物等)の連携について確認するため、「北部市場」「JA尾張中央」「JA西春日井」にヒアリングを行った。

◆ヒアリング結果の要旨

(北部市場) 「マルシェのようなイベントは参加したい仲卸店がいる可能性がある。近隣店舗の理解が課題」

(JA尾張中央) 「常設は難しいが、イベント等での産直品等の販売(マルシェの1ブース)については可能性がある。」

(JA西春日井) 「常設での産直販売の連携は難しい、朝市のようなイベント等の開催での連携であれば可能性あり」

地元物販(農産物等)として、「マルシェ等」のイベント開催であれば一定の実現可能性あり

※結果を踏まえて、導入する場合の条件(費用負担、運営内容等)を継続検討する。

<ヒアリング概要 (1/2) >

北部市場

(名古屋市中心卸売市場北部市場協会・北部市場青果卸売会社協会)

主なヒアリング内容

連携可能性

- 手挙げ方式により、個々の仲卸店が出店する方法は可能かもしれない
- 市場まつりや親子探検隊のイベントは連携できるかもしれない
- 昔の八百屋や魚屋のように、食材をお客さんに説明して買ってもらう対面販売をやってみたいという声もある
- マルシェのようなイベントで、市場として参加できる可能性はある

実施上の課題

- 仲卸店が消費者に直接販売することについて、近隣の店舗等の理解を得る必要がある

運営状況・実施例

- 産地交流会として、市場職員が長野県信州のJAまでバスで行き、アスパラガス農家と交流
- 協会内に市場活性化委員会があり、市場まつりや親子探検隊などのイベントを開催

2-2. 「No.12 地元物販」への対応:関係者ヒアリングの概要 ~ 北部市場、JA尾張中央、JA西春日井~

<ヒアリング概要 (2/2) >

JA尾張中央
(尾張中央農業協同組合 農業振興部)

JA西春日井
(西春日井農業協同組合)

連携可能性

- イベント等のピンポイントでの産直品等の販売については可能性がある
- マルシェ等のイベントでの販売・産直部会との連携の可能性
- JAとして賑わい施設に産直施設を設置するのは難しい

- 朝市等の不定期なイベントでの連携の可能性はある
- 月一回程度の朝市の開催は難しい(人員や品揃えの確保が必要となるため)
- 賑わい施設の運営会社等がJAから野菜を買い取って販売等であれば定期開催も可能性はある

実施上の課題

- 野菜の販売のみでは来客が少ないので、鮮魚や精肉、総菜等も販売
- その他のスーパーとの差別化が必要
- 場所が青山地区のため、JA西春日井との調整が必要

- 朝市の商品や売り上げのやり取りをJA職員が担当しているため、業務の負担となっている
- 運営を民間委託とした場合、販売方法に不安がある
- 産直販売は商品の売れ残りが目立つ昼以降の営業が課題
- 取り扱っている野菜は葉物が多いので日持ちしない

運営状況・実施例

- 尾張中央農協では、4か所の施設で常時産直販売を行っている
⇒「ファーマーズマーケットぐうぴいひろば」、「グリーンセンター 桃花台・春日井中央・味美」
- 「ぐうぴいひろば」は、供給量が不足している

- 朝市を青山支店の中で開催(野菜やお盆で使う仏花を販売)
⇒利用者からは、近所に店がなく生活難民という声もあり、一定の効果がある
- 清洲城隣の「清洲ふるさとのやかた」で地元野菜を販売
- あいち朝日遺跡ミュージアムで朝市(年2回程度、不定期)
- 取り扱う野菜を使った料理教室(先生を呼び定期的に開催)
- 収穫体験を定期的に開催(ジャガイモ、サツマイモ、里芋)

主なヒアリング内容

2-2. 「No.12 地元物販」への対応:関係者ヒアリングの概要 ~愛知県商工会~

➤ 賑わい施設における地元物販の連携について確認するため、「愛知県商工会連合会(まるっと!あいち)」にヒアリングを行った。

◆ヒアリング結果の要旨

(愛知県商工会)「賑わい施設へ「まるっと!あいち」の出店の可能性はある。特産品コーナーとして導入することも検討可。」

地元物販として、「アンテナショップ等」の出店可能性はあり

※結果を踏まえて、導入する場合の条件(費用負担、整備・運営内容等)を継続検討する。

まるっと!あいち (愛知県商工会連合会)

「まるっと!あいち」とは



引用: <https://www.aichipfsci.jp/marutto/>

連携可能性

- 町の整備する賑わい施設に「まるっと!あいち」の出店の可能性はある
- 商工会やその加入企業のPR(アンテナショップ)が目的(採算性は度外視)
⇒出店時に特産品コーナーに変更も検討可
- イートイン施設を置くと料理人等の人員が多く必要で、管理が大変。テイクアウト方式で誰でも作れそうな団子や蒸し物、ドリンク等は売り上げも良いかもしれない
- 弁当を販売して屋外で食べてもらうのは良いかもしれない

実施上の課題

- 現在は各商品は持ち込みで販売手数料を徴収。運営は委託で行っているため、販売手数料の売上が委託費以上ないと黒字にならない
- 運営を委託とした場合は売り上げ重視となり、商品は委託業者が選定するため、連合会の希望する商品が置けなくなってしまうかもしれない
- 平日の利用数や商品の日持ちが運営していく上での課題
- 公園へ遊びに来る人と地元の人では商品のターゲットが異なる

運営状況・要望等

- 売上品目の上位20品で、全体の8割の売上(せんべい系や五平餅、焼き海苔等)
- 野菜や果物は売れ行きがいい(渥美半島産のイチゴやトマト、朝採れ野菜等)
- 現状の売り場面積は33㎡、バックヤードが4㎡
⇒出来れば倍程度の面積が欲しい
⇒冷凍庫や冷蔵庫がおけると商品の幅が広がる
⇒事務負担削減のため、施設内のレジ一本化を検討してほしい

(内容)

愛知県内の特産品を集めたアンテナショップ

(場所)

県営名古屋空港(ターミナルビル1階)

(取扱商品)

- 県内品95社285品目、県外品60品目(FDA就航先)
- 酒16種類

2-3. 農業支援エリアに関する報告事項

- 都市農業振興基本法に基づく農業支援エリアの設置可能性について検討を実施。
- 確認の結果、都市農業に係る事業については、対象が「農地」であり、都市公園は対象外のため、直接的に公園で実施することは困難。

<都市農業振興基本法とは>

平成27年に施行された、都市農業の安定的な継続と、都市農業の有する多様な機能の十分な発揮を図り、もって良好な都市環境を形成するための法律。



<都市農業に係る支援メニュー>

農林水産省が所管する都市農業に係る支援メニューは、都市農業共生推進等地域支援事業(農山漁村振興交付金)が挙げられるが、本公園は対象外であることを確認済み。

<今後の検討の方向性>

1. 都市農業振興基本法が持つ目的を尊重し、農業教育の場として、アリーナに設置される会議室などを使用したセミナーの開催を可能とする。
2. セミナー運営は、地域の農業従事者有志やJA等の協力により、ボランティアで実施することを想定している。
3. 近隣には、新たに町民農園が築造される予定。農園での実地指導も可能である。

第7章 施設配置および動線の検討

3-1. 施設配置および動線の検討(アリーナの位置)

- アリーナの位置について航空交通管制上の電波干渉条件を考慮し、東西の配置を検討した結果、西側配置②の方がメリットが多い

比較項目	①アリーナを東側に配置	②アリーナを西側に配置
配置例		
メリット/ デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ○電波干渉を軽減することができる ○避難所・アリーナ、賑わい施設が隣接し、一体利用しやすい △広場が施設等で囲まれないことから、広場の輪郭が弱まり、滞在性・回遊性が低い △駐車場が西側、東側の分散配置となり、西側駐車場は、車両出入口が1箇所かつ狭くなることから、安全性、利便性が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ◎電波干渉を最小限に軽減することができる (電波干渉条件が厳しいR214ラインからの距離を最大限確保可能) ○避難所・アリーナ、賑わい施設等によって囲まれた広場が形成されるため、滞在性・回遊性の高い空間を創出しやすい ○駐車場は東側の1箇所となり、2方向の出入口の利用が可能で、安全性、利便性が高い

3-2. 施設配置および動線の検討(賑わい施設の位置)

- ②案を踏まえ、賑わい施設の南北の配置について比較検討した結果、北側配置②-1の方がメリットが多い

比較項目	②-1 賑わい施設を北側に配置	②-2 賑わい施設を南側に配置
配置例		
メリット/ デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ◎電波干渉を最小限に軽減することができる (電波干渉条件が厳しいR214ラインからの距離を最大限確保可能) ○避難所・アリーナと賑わい施設を最短距離で結ぶことができ、利便性が高い ○アリーナ、賑わい施設等によって囲まれた広場が形成されるため、滞在性・回遊性の高い空間を創出しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○電波干渉を軽減することができる △避難所・アリーナと賑わい施設相互の視認性が低い △避難所・アリーナと賑わい施設の間が長く、直線的でないことから、利便性も低く、双方の連携が弱い △広場が施設等で囲まれないことから、広場の輪郭が弱まり、滞在性・回遊性が低い

3-3. 施設配置および動線の検討(モビリティハブの配置)

- ②-1案を踏まえ、モビリティハブの配置について南北で比較検討した結果、北側配置の方がメリットが多い

比較項目	②-1 (A) モビリティハブを北側に設置	②-1 (B) モビリティハブを南側に設置
配置例		
メリット/ デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ○車両動線と歩行者動線の錯綜の可能性が無く、安全性が高い ○モビリティハブと賑わい施設の歩行動線距離が短く、利便性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> △モビリティハブから賑わい施設への歩行者動線も想定され、安全性が低い △モビリティハブと賑わい施設の歩行動線の距離が長いため、利便性が低い △モビリティハブの混雑状況によっては、県道に車両が滞留する可能性がある
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・バス左側から昇降するため、一方通行で南側から入り、東側へ抜けていくことを想定している ・一般車両は、南側からも東側からも出入り可能とする ・バス等と一般車の走行は混在と想定している 	

3-4. 施設配置および動線の検討(バスロータリーの設置)

- バス等と一緒に車両の動線分離のメリットがあるものの、本施設の災害時での重要性を踏まえ、バスロータリーは設置しない

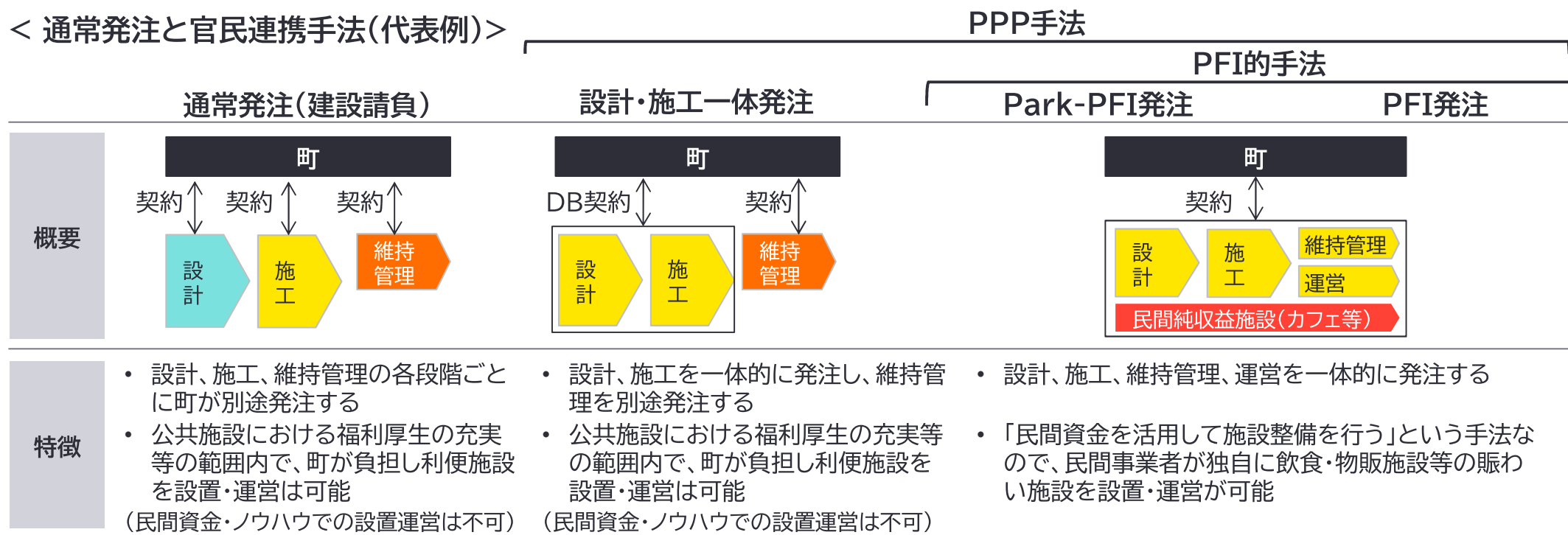
比較項目	②-1 (A) バスロータリーを設置しない	②-1 (A') バスロータリーを設置
配置例	<p>ふれあい広場 (人工芝) (0.96ha) 広場 (人工芝) (0.89ha) アリーナ 賑わい施設 モビリティハブ R226 (NAGOYA6) SPA</p> <p>バス・グリスロ等の動線 一般車両の動線 駐車場・出入口からの歩行者動線</p> <p>歩行者等：出入口 バス・グリスロ等：出口 一般車両：出入口</p> <p>歩行者等：出入口 バス・グリスロ等：入口 一般車両：出入口</p>	<p>ふれあい広場 (人工芝) (0.96ha) 広場 (人工芝) (0.89ha) アリーナ 賑わい施設 モビリティハブ バスロータリー R226 (NAGOYA6) SPA</p> <p>バス・グリスロ等の動線 一般車両の動線 駐車場・出入口からの歩行者動線</p> <p>歩行者等：出入口 バス・グリスロ等：出入口</p> <p>歩行者等：出入口 バス・グリスロ等：入口 一般車両：出入口</p>
メリット/ デメリット	<p>△モビリティハブを出るバス等と一般車両の錯綜が発生する</p>	<p>◎バス等と一般車両の錯綜を理論上無くすることが可能となり、安全性が高く、バスの定時性も確保可能</p> <p>△駐車スペースが小さくなるため、駐車可能台数が少なくなるとともに、災害時の活用スペースも小さくなる</p> <p>△一般車両の導線が長くなる</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・バス左側から昇降するため、一方通行で南側から入り、東側へ抜けていくことを想定 ・一般車両は、南側からも東側からも出入り可能とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス等はロータリーに近い東側から出入りすることを想定している ・一般車両は南側からのみ出入り可能とする

公共施設の整備手法について

4-1. 公共施設の整備手法について

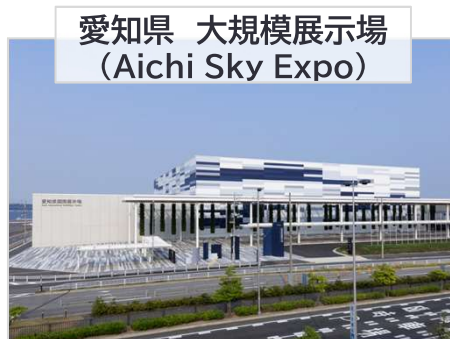
- 整備の手法は、建設工事のような通常発注のほか、官民が協同して効率的かつ効果的に質の高い公共サービスの提供を確保する目的とした、官民連携手法(PFI的手法)があります。
- PFI法においては、収益により事業費用を賄える場合など民間事業者に委ねることが適切なものは、できる限りその実施を民間事業者に委ねるもの、とされています。

< 通常発注と官民連携手法(代表例)>



導入事例

(事例多数あり)



愛知県 大規模展示場 (Aichi Sky Expo)

引用: <https://www.aichi-now.jp/spots/detail/2995/>



名古屋市 名城公園 (トナリノ)

引用: <http://tonarino-park.jp/>



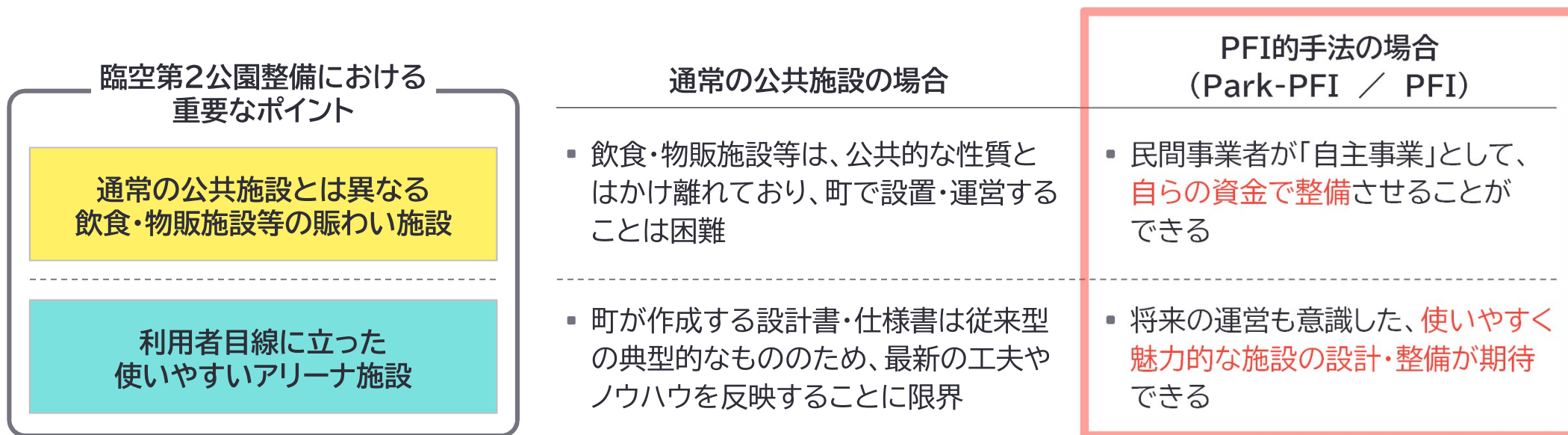
愛知県 森林公園ゴルフ場 (ウッドフレンズ)

引用: <https://www.shinrinkoen.com/history/>

4-2. 臨空第2公園の整備・運営手法の検討について

- 飲食・物販施設等の賑わい施設の設置・運営や、より利用者が使いやすいアリーナ施設を整備するためには民間資金やノウハウの活用を最大限発揮できるPFI的手法の適用が効果的です。
- PFI的手法が臨空第2公園の整備に適切かどうかは、本検討会議を終えた後に、収支シミュレーションによる町財政への影響の程度の精査、民間事業者との意見聴取による実現可能性の確認を通じて確かめていきます。

< 整備手法の考え方(イメージ) >



- 民間資金を活用することによって、本当に「町の財政にとってメリットがあるのか」
 - 民間事業者にとって「参画するに値する事業といえるのか」
- 今後、「収支の試算(VFM)」や「民間事業者への意見聴取(ヒアリング)」を通じて確認予定

4-3. PFI的手法を導入した場合の今後の流れ

- PFI的手法を導入する場合には、「**事業の枠組み設計** ▶ **公募に向けた準備** ▶ **公募手続・提案審査** ▶ **事業の開始**」の手順となります。
- 基本計画の内容は、PFI的手法を導入する場合には、遵守すべき条件(**要求水準書**)と提案で期待する事項(**審査基準**)等の公募資料へ反映することとなります。
- また、コンビニやカフェ等の賑わい施設は、**民間事業者とのヒアリング**で市場性・導入可否を確認した上で、公募資料へ反映することとなります。

< PFI的手法を導入した場合の今後のプロセス >

PFI的手法による調達におけるプロセス

